

「結果の分析と指導の改善」

【社会】 < 中学校 第2学年 >

1 結果のポイント

「社会的事象についての知識・理解」について、織田信長の天下統一事業についての理解をみる問題の正答率は90%程度、鑑真の業績についての理解をみる問題の正答率は80%程度である。地図上の八方位についての理解をみる問題の正答率は65%程度であり、平城京を都とした時代が奈良時代であることについての知識をみる問題の正答率は65%を下回っている。

「資料活用の技能・表現」について、地図から日本の領海等について読み取る力をみる問題や、資料を活用して文化の特色をとらえる力をみる問題の正答率は80%を上回っている。コロンブスがアメリカ大陸を発見した際の航路を、地図上から選択する力をみる問題の正答率は50%程度、与えられた情報をもとに、方位、地図記号を活用して略地図に書き表す力をみる問題の正答率は40%を下回っている。

「社会的な思考・判断」について、岐阜県内の各地域の農業の特色や、歴史の大きな流れについて資料を活用して、考え、判断する力をみる問題の正答率は70%を上回っている。複数の資料を活用して、豊臣秀吉が行った政策が社会に与えた影響について考え、それをキーワードを用いて記述する力をみる問題の正答率は45%をやや下回っている。

2 結果の分析と指導方法の工夫改善

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

< 問題 > 3 1

基礎学力UPのカギとなる問題

～「つまずき」とその解決策をさぐる～

3 あきらは、地形図を活用しながら、須坂を歩いて調査しました。「須坂の地形図」と「あきらの報告文」を見て、1～4の問いに答えなさい。 (*地形図は略)

あきらの報告文 (一部)

A地点の駅から[]の方位にあるB地点の郵便局までは建物が密集していました。最後にD地点から[]の方位にあるA地点の駅に戻りました。

1 文中の[]、[]にあてはまる方位の組み合わせとして正しいものを、次のア～エの中から一つ選び、その符号を書きなさい。

ア 南東 北西 イ 南東 北東 ウ 南西 北西 エ 南西 北東

< 結果 > 3 1 正答率 64.7% (正答...イ)

< 分析 >

この設問は、地図上の八方位について正しく理解しているかをみる問題である。地図上の八方位を問うこれまでの類似問題の平均正答率は、59.7% (平成17年度) から75.4% (平成20年度) の間で推移している。また、3 2の等高線が示す高さについての理解をみる問題の正答率が77.8%、3 3の土地利用や施設等の地図記号についての理解をみる問題の正答率が70.8%であった。

このことから、理解が不十分な20～40%の生徒に対して、地図の約束事や地図に表現されている基本的な事柄についての理解の定着を図る指導を行っていく必要がある。

< 指導方法の工夫改善 >

学習内容に即して地図を積極的に活用し、その中で、地図の約束事確かめ、「方位」「等高線」「地図記号」「縮尺」等に注目して地域の特色をとらえさせていく指導を繰り返す。

「世界と日本の地域構成」の学習において

- ・地図帳の巻頭に示されている「地図帳の使い方コーナー」や教科書の「スキル・アップ『地図帳を使って調べてみよう』」を活用する。その際、小学校で身に付けてきた地図の見方や地図帳の活用の仕方を見届け、指導に生かしていくことができるようにする。

「身近な地域の調査」の学習において

- ・身近な地域の調査結果を地図等に表現する際には、地図の約束事を踏まえるとともに、「方位」「等高線」「地図記号」「縮尺」等を活用して説明することができるように指導する。

すべての分野の学習において

- ・地理的分野の学習においては、内容に即した地図を常掲し、八方位を用いて位置を確かめる指導や等高線を活用して地形の様子をとらえる指導を行う。また、歴史的分野や公民的分野の学習においても、様々な出来事の起こった場所を地図で確かめるなど、積極的に地図を活用する。

(2) 「資料活用・表現」の力をみる問題の例

<問題> 5 6

下線 について、次の説明文にあてはまる航路を、下の地図中に示されたア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。（*説明文 略）



<結果> 5 6 正答率 50.4% (正答...ア)

<分析>

この設問は、文章の内容と地図を活用して、コロンブスがアメリカ大陸を発見した際の航路を選択することができるかをみる問題である。誤答を分析するとマゼラン船隊とバスコ・ダ・ガマの航路、イとウを選択した生徒が多かった。このことから、15世紀末からのヨーロッパ人による新航路の開拓について、誰がどのような航路を開拓したのかを地図と文章とを関連付けてとらえていくことができなかつたといえる。様々な資料を関連付けて活用することができる力を高めていく必要がある。

<指導方法の工夫改善>

地図や年表、新聞、読み物、統計等の様々な資料を適切に選択し、関連付けて活用することによって、社会的事象を多面的・多角的にとらえていくことができるように指導する。

すべての分野の学習において

- ・資料活用の技能を系統的に身に付ける意図的な指導を積み重ねる。教科書の「スキル・アップコーナー」を有効に活用する。
- ・複数の資料を活用して、社会的事象の意味や意義、事象間や地域間の関連などを追究し、自分の言葉で表現する学習を重視する。
- ・コンピュータや情報通信ネットワーク、電子黒板などを使って、生徒の興味・関心を高め、主体的に資料を活用していくことができるようにする。また、生徒にコンピュータや情報通信ネットワークを活用させる際には、情報モラルの指導に十分配慮する。

資料活用の技能を身に付ける

「スキル・アップコーナー」(教科書頁)

地理的分野

- ・景観写真の読み取り方(52頁)
- ・グラフの読み取り方(56頁)
- ・統計資料を読み取ってみよう(79頁)
- ・分布図を比べてみよう(102頁)
- ・主題図を比べてみよう(121頁)

歴史的分野

- ・系図の読み方(41頁)
- ・資料から考えてみよう(198頁)

(3) 「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> ⑤の7

7 カードA～Dを、年代の古い順に正しく並べたものを、次のア～エから一つ選び、その符号を書きなさい。

ア	A	B	C	D	イ	A	C	B	D
ウ	C	A	B	D	エ	C	A	D	B

<p>A 唐の都長安にならって平城京がつくられました。また律令にもとづいて政治が行われました。</p> <p>地図</p>	<p>B ポルトガル人が伝えた鉄砲は各地に広まりました。②は鉄砲を有効に使い、武田氏を破りました。</p> <p>地図</p>	<p>C フビライは日本を従えようと、高麗の軍勢も合わせて攻め入ってきましたが、御家人の活躍で退けることができました。</p> <p>地図</p>	<p>D 鎖国をした後も、中国とオランダとは長崎で貿易が行われ、日本からは金・銀などを輸出しました。</p> <p>地図</p>
---	---	---	--

<結果> ⑤の7 正答率 74.0% (正答...イ)

<分析>

この設問は、年表や資料を活用して、歴史の大きな流れについて考え、判断する力をみる問題である。これまでの類似問題の正答率と比較すると、平成19年度：64.3%、平成20年度：65.4%を上回っており、指導改善の成果が表れている。誤答を分析すると、アとウを選択した生徒が多くおり、個別の歴史的事象と時代の特色とのつながりや、時代の移り変わりを十分にとらえることができない生徒が30%程度いるという課題がある。このことから、時代の特色やその移り変わりについて思考・判断する活動を大切に、歴史の大きな流れの理解を図る指導を一層重視していく必要がある。

<指導方法の工夫改善>

学習内容の比較や関連付け、総合の過程などを通して、他の時代との共通点や相違点に着目しながら各時代の特色をとらえ、歴史の大きな流れの理解を図る指導を重点的に行う。

すべての歴史的分野の学習において

- ・年表を常掲して、本時の学習内容が「どの時代の、何世紀の出来事なのか」を生徒が毎時間意識することができるように働きかける。
- ・単元構造図を作成するなど、単元のねらいを踏まえて単位時間相互の関連や、他の時代とのかかわりをとらえて指導にあたる。
- ・学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を位置付け、各時代の特色をとらえる指導を行う。

【歴史的分野の学習内容の構造化図(部分例)】
(中・学習指導要領解説社会編平成20年9月 12頁)

上記の図は、学習内容の構造化の一例を示している。授業では一番右にある具体的な個別の事象を扱うが、歴史学習がめざすのは、より左の囲みの内容の理解である。

3 分析を踏まえた指導改善事例

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16～H18)及び授業改善推進プラン(H19～H21)」を参照する。(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)

- 例 : 平成19年度 第2学年「世界と日本の生活と文化」
- ・一人一人の生徒に確かな資料活用の力の育成を図った実践
- 例 : 平成20年度 第1学年「都道府県の調査(岐阜県)」
- ・単元を貫く課題を設定し、単位時間の役割を明確にした単元構成と、問い返しの発問によって生徒の思考と認識を深めた実践
- 例 : 平成21年度 第2学年「世界と日本の資源と産業」
- ・単元を構造化し、様々な視点や立場から主体的に追究する力の育成を図った実践